

SBO対策、津波評価他

安全委 原災踏まえ見直し進む

原子力安全委員会は、二十二日の臨時会議で、同委専門部長らより、安全設計審査指針など、三指針類の見直しを柱とする福島原子力発電所事故を踏まえた検討状況について報告を受けた。一年三月の大地震・津波、これに伴う原子力災害の教訓から、安全確保策の抜本的見直しに向け、昨夏より、同委の専門家会合で審議を進めてきたもの。

これを受け、班目春樹・安全委員長は、事故の教訓を踏まえた調査検討に「すべてが抽出され尽くしているわけではない」と指摘し、

「い」などとして、各部会による今回の検討状況が、あくまで途上にあることを強調した上で、今後、原子力安全規制体系の見直しが見込まれることから、「原子力規制庁の下で規制に係る具体的な準備等が鋭意整備されていくもの」と述べた。

安全設計審査指針の見直しでは、特に、「指針二十七」関連で、全交流動力電源喪失(SBO)対策について優先的に検討を行い、①SBOの発生頻度を合理的に達成できる限り低いものとする②SBOが発生した際には原子炉を安全に停止し

廃炉工程など説明

中長期措置 検討結果 郡山で意見交換会



原子力委員会は二十四日、福島第一原発の中長期措置について御意見を聞く「郡山で意見交換会」を開催した。

近藤駿介・原子力委員長と園田康博・大臣政務官の挨拶後、事務局が福島第一原子力発電所における中長期措置に関する検討結果について説明。続いて、山下和彦・東京電力原子力・立地本部福島第一対策担当より福島第一原子力発電所の現在の状況について、朝日弘・経済産業省エネルギー・環境担当審議官より同一4号機の廃止措置等について説明した。

これを機に、田中勝正・名古屋大学医学部教授がコメントし、「依然としてサイト内は線量が高いため、取りかかれる有効な技術はなく、頑張って年単位での取り組みが必要」と述べた。また、地元から、角山茂章・会津大学学長が「人と組織——人は石垣、人は城」と題し、国と地方が対話する機会的重要性や、専門知識と組織の統率力を兼ね備えた人材育成の必要性について発表した。

住民との意見交換で

チェルノブイリの状況聞く

国会事故調 ウクライナから招致

国会の福島原子力発電所事故調査委員会は十九日、ウクライナ非常事態省チェルノブイリ立入禁止区域管理

針に反映することとしていた。また、SBO対策に引き続き、最終ヒートシンク喪失対策に係る検討も行った。

耐震設計審査指針の見直しでは、津波について、これまで地震随伴現象として、わずかな記述に留まっていたところ、独立した項目立てとし、基準

津波の策定など、津波評価に必要な規定を設けることにも、名称を「地震・津波指針」(略称)に変更することも提言している。また、マグニチュード9の地震が想定できなかった理由について、地震調査研究推進本部からヒアリングを実施するなどの、地震動評価の向上に

関する検討も行った。防災指針の見直しでは、防災対策を重点的に実施する区域として、「予防的防護措置を準備する区域」(PAZ) および「緊急防護措置を準備する区域」(UPZ) の設定と、区域ごとの防護措置内容について述べているほか、緊急時モニタリ

ング、安定ヨウ素剤の予防的服用など、被ばく医療のあり方についても、防災対策に係る専門的・技術的事項を提言しており、これらを踏まえ、防災基本計画、地域防災計画、関係法令・規定類等の見直しを図られるよう求めている。

核セキユリティ 対策強化求める

原子力委員会は、二十一日、核セキユリティ対策の強化に関する委員会決定を行った。福島事故を踏まえた同委原子力防護専門部会による審議経過報告に対するもの。

専門部会報告では、IAEA勧告文書を国内の取組に反映させる方針と、福島事故を踏まえた課題対応について述べているが、委員会決定では、特に、同報告書が、内部者による情報漏えい、妨害破壊行為などに備え、個人の信頼性確認に向け、制度導入の検討を続ける

べきとしている点に言及し、「核セキユリティ文化」、国民の理解・協力を高め、核セキユリティ対策を着実に強化していくことを求めている。

また、規制組織の見直しに伴い、今後は原子力安全強化・技術フォーラムの渡中参加団(団長・鷲見積彦・日本原電特別参加者)を派遣することとし、同日まで参加者を募集している。通訳付き参加費は、航空運賃、宿泊料、現地交通費、税込み六十八万円。詳細は、アジア技術移転機構(電話03・6229・1950)まで。

日中フォーラム 参加者募集中

技術者連盟 日本技術者連盟・国際原子力発電技術移転機構は、四月二十二・二十八日の日程で「日中原子力安全強化・技術フォーラム」の渡中参加団(団長・鷲見積彦・日本原電特別参加者)を派遣することとし、同日まで参加者を募集している。通訳付き参加費は、航空運賃、宿泊料、現地交通費、税込み六十八万円。詳細は、アジア技術移転機構(電話03・6229・1950)まで。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

は、県外へ避難させた子どもと離れて暮らすことについての憤怒や有機農業を続けることへの不安の声が相次いだ。会場には佐藤栄佐久・前福島県知事も姿を見せ、〇四年の国会でも福島県民の立場を主張したことなどを語った。これに対し、近藤委員長は、当時を振り返り、前回の大綱策定時に、地元住民の苦勞や深層防護について反映した経緯を説明した。

予定時刻を過ぎても参加者の意見が尽きなかったが、主催側は今後も住民との対話を続けていくとした。

原子力ワンポイント



日本の放射線・放射能基準

①福島第一原発事故(番外編⑰)

百 μ Svシールベルト (約1 μ Sv) 未満の被ばくでは損傷したDNA(Aデオキシリボ核酸が元通りに正しく修復されると考えられます。健康調査をしっかりとって長寿の福島県民になってもらいたいと思います。

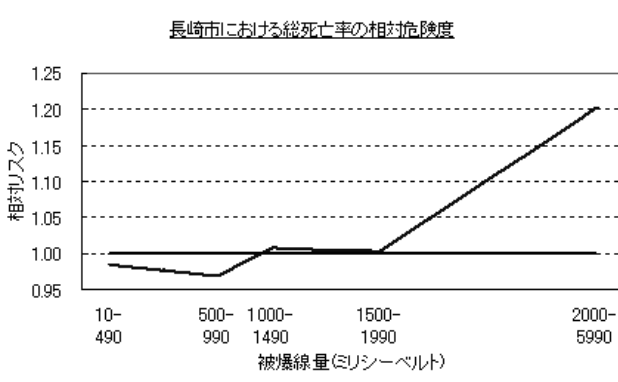
百 μ Sv未満の被ばくは、損傷したDNAは修復されるから大丈夫。損傷したDNAがガンの原因になることは、本紙二〇一一年三月三十一日付け「広く利用されている放射線の②参照。DNAの修復を考慮しないことは放射線の影響を少なくとも安全側に評価することになる。ICRP(国際放射線防護委員会)は規制の考え方に、この修復効果を採用しません

百 μ Sv未満の被ばくは、損傷したDNAは修復されるから大丈夫。損傷したDNAがガンの原因になることは、本紙二〇一一年三月三十一日付け「広く利用されている放射線の②参照。DNAの修復を考慮しないことは放射線の影響を少なくとも安全側に評価することになる。ICRP(国際放射線防護委員会)は規制の考え方に、この修復効果を採用しません

百 μ Sv未満の被ばくは、損傷したDNAは修復されるから大丈夫。損傷したDNAがガンの原因になることは、本紙二〇一一年三月三十一日付け「広く利用されている放射線の②参照。DNAの修復を考慮しないことは放射線の影響を少なくとも安全側に評価することになる。ICRP(国際放射線防護委員会)は規制の考え方に、この修復効果を採用しません

百 μ Sv未満の被ばくは、損傷したDNAは修復されるから大丈夫。損傷したDNAがガンの原因になることは、本紙二〇一一年三月三十一日付け「広く利用されている放射線の②参照。DNAの修復を考慮しないことは放射線の影響を少なくとも安全側に評価することになる。ICRP(国際放射線防護委員会)は規制の考え方に、この修復効果を採用しません

百 μ Sv未満の被ばくは、損傷したDNAは修復されるから大丈夫。損傷したDNAがガンの原因になることは、本紙二〇一一年三月三十一日付け「広く利用されている放射線の②参照。DNAの修復を考慮しないことは放射線の影響を少なくとも安全側に評価することになる。ICRP(国際放射線防護委員会)は規制の考え方に、この修復効果を採用しません



注) Mine 他 "Apparently beneficial effect of low to intermediate doses of A-bomb radiation on human lifespan" TABLE 1 を基に本紙でグラフを作成した。

ゲンくん 健康管理 調査がきちんとされて、福島県の方々が一日でも長生きされるといいね。苦しんだ人が苦しんだ以上にたくさん幸せになつてほしい。災いを転じて大きな福となつてほしい。(原産協会・政策推進部)